

吉野復興大臣の岩手県知事との意見交換後ぶら下がり会見録
(平成29年5月1日(月)9:20~9:25 於)岩手県庁)

1. 発言要旨

おはようございます。達増知事にお忙しい中お会いしてまいりました。冒頭、前大臣の発言に対して、本当に東北の人々に大きな傷を負わせた、そして、復興庁の信頼を失う発言だったということをお詫び申し上げたところです。

それから、いろいろ復興の話に移りまして、達増知事の方からはまず、まだ仮設に1万2,000人以上暮らしている、この問題も早急に対応してほしいと。もう一つは岩手県の水産業。なかなか売上が芳しくないということで、販路拡大、ここにも尽力してほしい。あとはマンパワーです。特に役所の方のマンパワーと、あとグループ補助金等々で再開をしても、そこで働く人々、いわゆる人手不足、この二つの問題がマンパワーにはございます。この辺のところは今課題であるというお話も伺いました。

最後にインバウンド。全国の伸びから比べると、東北地方はまだまだ少ない伸びでございますので、聞くところによりますれば、東北の知事で台湾等に行っているいろいろ売り込みをしているというお話も伺いました。

私も福島 of 被災者の一人として、それぞれの段階にそれぞれの課題がございます。ですから、今の岩手県のステージでの課題、そういうものを、現場を見ながら一生懸命把握をし、それに対応してまいる、このように考えているところです。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 前大臣は問題発言で辞任という形になりましたけれども、その信頼回復を吉野大臣はどのように図られるお考えですか。

(答) 寄り添ってという、大変耳障りのいい言葉ですが、私は被災者の一人として、真に寄り添ってということの基本に置きたいと思えます。

その寄り添ってという中身は、ある民間の施設が避難所になりました。多くの方々が避難してきたんですけれども、復興が進むにつれ、一人減り、二人減り、最後に一人になっちゃったんです。民間施設ですから、みんな早くあの人を、一人を追い出して、元の施設として使おうと言っていたんですけど、そこの責任者は追い出しませんでした。被災者にはそれぞれの考え方があるんです。その一人一人の考え方を大切にして、最後に自主的に出るまで待っていたんです。

私はこのような気持ちで復興大臣を務めていきたいと。被災者に寄り添ってという吉野正芳の立場は、今のような心を持ってやりたいということを質問の中でも答弁をしたところです。

(以 上)